

令和2(2020)年9月9日

校門周辺整備事業竣工式 挨拶

本巣松陽高等学校同窓会

会長 川瀬 善忠

新型コロナウイルスが国内に蔓延し、非常事態宣言が発令される中の本年5月12日に、本巣松陽高等学校百周年記念事業「正門周辺整備事業」の安全祈願祭を挙行了しました。それから約4ヶ月、当初の工事計画に基づき着々と整備事業が進行し、ここに竣工式を挙行できることを誠にありがとうございます。

来る10月16日には百周年の記念式典・記念祝賀会を開催する予定でしたが、1年の延期を決定しました。5月当初は、9月初めに学校行事として行われる「银杏祭」の場で、この竣工式を行うことを願っていましたが、新型コロナウイルスの感染防止の徹底を図るため、この「银杏祭」が中止になり、多くの皆様を交えての竣工式ができなくなりました。関係者の尽力により、密閉・密集・密接の回避をし、感染防止の対策を取り、ここに厳粛な式を開催できることは感謝に堪えません。

100年の歴史と伝統を次の世代に大切に引き継ぎ、さらに次の100年に繋げたいとの願いの下、シンボルである正門が新たに完成し、新しい歩みがスタートすることになりました。この事業は、母校を卒業した同窓生、教職員、PTA、等多くの皆さんの温かいお志が一杯詰まった協力のおかげで、完成を見ることができました。

在校生の皆さんにも、この企画に参画してもらいました。完成した正門のエントランスエリアの舗装銘板のデザインを在校生から募り、当時2年2組(現3年2組)の川村葵さんの作品が優秀デザイン賞を受賞しました。「青色は空であり、清流であり川の流れ、大空にたなびく風をグラデーションで表現し、そこに希望にあふれる白いハトが羽ばたく輝く未来をイメージし、本巣松陽高等学校の卒業生が様々な未来に向かって羽ばたいてほしい」との願いを込めたデザインです。

100年の間、卒業生を見届けてきた古い正門の構造物の一部を银杏館に保管し、後世に伝える工夫もいたしました。

4ヶ月の工事期間中、特に7月の長雨、そして8月の猛暑と厳しい気候の中で、工事を請け負っていただいたヤハギ緑化(株)の船橋社長、林課長、現場を仕切ってくださった梅村さんと土屋さんに深く感謝いたします。有難うございました。

本日は大矢校長先生、森生徒会長、山本PTA会長等、最小の人数での竣工式となりましたが、この事業の趣旨をしっかりと抱き、新しい幕開けに向かい、テープカットをしたいと思います。

最後に創立百周年を記念するメインの事業を綿密に企画し、完成に導いてくださった小川裕幸委員長を中心とする事業委員会に、深く感謝を申し上げ、挨拶といたします。